
兄戦記

叶星

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

兄戦記

【Nコード】

N5041F

【作者名】

叶星

【あらすじ】

真田昌幸の息子であり、真田幸村の兄である真田信之の戦記。

序章・親子の別れ

ぱちぱち、と松明の燃える音がする。

そこには、真田昌幸さなだまさゆきと真田信之さなだのぶゆきが向かい合って座っていた。

信之は、目を伏せていた。

手には石田三成いしだみつなりがよこしたとされる書状を握っていた。

「父上、私は、石田の申すことに賛成できません」

信之は首を振りながら、落着いた声で言った。

そして、書状を昌幸にまた手渡した。

昌幸は、うつむと唸るような低い声で、考え込んでしまった。
考えている時間がやけに長く感じた。

「それがお前の答えなのだな？」

「はい」

「そうか……」

大きくため息を吐いた昌幸は、信之の目をジッと見つめた。

信之も昌幸の目をジッと見つめ返した。

嘘偽りはないと言わんばかりの目なので、昌幸は思わず息を呑んだ。

「私のぶしげや信繁は西軍へ参ろうと想っていた。お前は東軍に参ろうと申すのか」

「はい」

信之は躊躇い無く頷いた。

親子が決別しても可笑しくない世の中であつたのは昌幸は知っている。

しかし。

昌幸は、暫くの沈黙に陥った。

我が子と戦うことがあるかも知れない。

すると昌幸は何を想ったのか、にやと笑った。

「良かるう。お前の好きな道を歩むがいい」

「・・・え？」

「いやはや、お前と戦えるとは、楽しみだな」

昌幸は楽しそうに笑い声を上げた。

信之はそれを見ると、酷く気持ちが落ち着いた。

「達者でな。信之・・・」

「はい・・・ッ」

親子はこうして袂を切ったのだ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5041f/>

兄戦記

2010年10月28日00時39分発行